

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
 マルホ発條工業株式会社第12期棟新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
		Q 建築物の環境品質						2.8	
Q1 室内環境			0.33				2.8		
1 音環境		3.0	0.15				3.0		
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40						
1.2 遮音		3.0	0.40						
1 開口部遮音性能		3.0	0.60						
2 界壁遮音性能		3.0	0.40						
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									
1.3 吸音		3.0	0.20						
2 温熱環境		2.3	0.35				2.3		
2.1 室温制御		2.5	0.50						
1 室温		3.0	0.38						
2 外皮性能		1.0	0.25						
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38						
2.2 湿度制御		1.0	0.20						
2.3 空調方式		3.0	0.30						
3 光・視環境		2.4	0.25				2.4		
3.1 昼光利用		1.8	0.30						
1 昼光率		1.0	0.60						
2 方位別開口									
3 昼光利用設備		3.0	0.40						
3.2 グレア対策		3.0	0.30						
1 グレア制御		3.0	1.00						
3.3 照度		2.0	0.15						
3.4 照明制御		3.0	0.25						
4 空気質環境		4.0	0.25				4.0		
4.1 発生源対策		4.0	0.50						
1 化学汚染物質	建築材料は、告知対象外の建材及びJIS・JAS規格のF☆☆☆☆を	4.0	1.00						
4.2 換気		3.3	0.30						
1 換気量	建築基準法の1.4倍以上の換気量を確保。	5.0	0.33						
2 自然換気性能	自然換気有効開口面積率3.7%	4.0	0.33						
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.33						
4.3 運用管理		5.0	0.20						
1 CO ₂ の監視	全熱交換器にCO ₂ センサーを採用	5.0	0.50						
2 喫煙の制御	建物内禁煙	5.0	0.50						
Q2 サービス性能			0.30				3.0		
1 機能性		2.8	0.40				2.8		
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40						
1 広さ・収納性	1人当たりの執務スペースが12㎡以上。	5.0	0.50						
2 高度情報通信設備対応		1.0	0.50						
3 バリアフリー計画	障害者の使用が無いことにより免除となったため対象外								
1.2 心理性・快適性		2.0	0.30						
1 広さ感・景観		3.0	0.33						
2 リフレッシュスペース		2.0	0.33						
3 内装計画		1.0	0.33						
1.3 維持管理		3.5	0.30						
1 維持管理に配慮した設計	維持管理に配慮した評価項目数6	4.0	0.50						
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50						
2 耐用性・信頼性		3.0	0.30				3.0		
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50						
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80						
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20						
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.30						
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20						
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	複層塗材RE	3.0	0.20						
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10						
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10						
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水VP(B)、排水VP(B)、Eは不使用。	5.0	0.20						
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20						
2.4 信頼性		2.6	0.20						
1 空調・換気設備		3.0	0.20						
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20						
3 電気設備		3.0	0.20						
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20						
5 通信・情報設備		2.0	0.20						

3	対応性・更新性		3.3	0.30	-	3.3
	3.1 空間のゆとり		4.0	0.30	-	
	1 階高のゆとり	階高の平均3.725m	4.0	0.60	-	
	2 空間の形状・自由さ	0.1 ≤ [壁長さ比率] < 0.3	4.0	0.40	-	
	3.2 荷重のゆとり		3.0	0.30	-	
	3.3 設備の更新性		3.0	0.40	-	
	1 空調配管の更新性		3.0	0.20	-	
	2 給排水管の更新性		3.0	0.20	-	
	3 電気配線の更新性		3.0	0.10	-	
	4 通信配線の更新性		3.0	0.10	-	
	5 設備機器の更新性		3.0	0.20	-	
	6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.37	-	2.7
1	生物環境の保全と創出		3.0	0.30	-	3.0
2	まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮		2.0	0.30	-	2.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	
LR	建築物の環境負荷低減性					3.2
LR1	エネルギー		-	0.40	-	3.1
1	建物外皮の熱負荷抑制	断熱性能の高い建材の採用	5.0	0.20	-	5.0
2	自然エネルギー利用	2方向以上へ開口部が設けられている。	4.0	0.10	-	4.0
3	設備システムの高効率化		2.3	0.50	-	2.3
4	効率的運用		3.0	0.20	-	3.0
	集合住宅以外の評価		3.0	1.00	-	
	4.1 モニタリング		3.0	0.50	-	
	4.2 運用管理体制		3.0	0.50	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	
	4.1 モニタリング		-	-	-	
	4.2 運用管理体制		-	-	-	
LR2	資源・マテリアル		-	0.30	-	3.4
1	水資源保護		3.4	0.20	-	3.4
	1.1 節水	節水型便器等を採用	4.0	0.40	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	
	1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	
2	非再生性資源の使用量削減		3.4	0.60	-	3.4
	2.1 材料使用量の削減		3.0	0.11	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.22	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.22	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		3.0	0.22	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	OAフロアの採用、躯体+軽鉄(LGS)+EP塗のため、容易に分別可能	5.0	0.22	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.7	0.20	-	3.7
	3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		4.0	0.70	-	
	1 消火剤		-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	GWP値=0の断熱材の採用(グラスウール)	5.0	0.50	-	
	3 冷媒	R410Aを使用	3.0	0.50	-	
LR3	敷地外環境		-	0.30	-	3.1
1	地球温暖化への配慮	高効率な設備機器を採用し、CO2を低減	3.1	0.33	-	3.1
2	地域環境への配慮		3.4	0.33	-	3.4
	2.1 大気汚染防止	燃焼機器を使用していない	5.0	0.25	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.7	0.25	-	
	1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	
	2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	
	3 交通負荷抑制	駐車場、駐輪場、乗荷用駐車スペースを確保している。	4.0	0.25	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	
3	周辺環境への配慮		3.0	0.33	-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	
	1 騒音		3.0	1.00	-	
	2 振動		-	-	-	
	3 悪臭		-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	
	1 風害の抑制		3.0	0.70	-	
	2 砂塵の抑制		-	-	-	
	3 日照障害の抑制		3.0	0.30	-	
	3.3 光害の抑制		3.0	0.20	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	
	2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

マルホ発條工業株式会社第12期棟新築工事

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	6.0	6.0	○	○	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-	○
1.3.2 維持管理用機能の確保	6.0	6.0	-	○	○	-	-	○	-	-	-	○	○	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	1.0	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	1.0	1.0	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	8.0	8.0	2.0	2.0	2.0	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0	3.0	2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	3.0	3.0	-	-	-	1.0	-	-	-	-	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	1.0	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	8.0	8.0	1.0	-	2.0	3.0	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	3.0	3.0	1.0	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 昼間照明及び屋内照明のうち月に照れる光への対策	2.0	2.0	-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標		値		基準	
Q1 室内環境					
2.1.3 外皮性能					
窓システムSC		0.5	窓の日射熱取得率(η)		0.9
U値(W/m2K)		窓システム 4.2	屋根 0.8	外壁 1.5	床 0.4
住戸部分 窓システムU値		-	外皮UA値	-	ηAC - ηAH -
3.1.1 昼光率		昼光率 0.6%			
4.2.2 自然換気性能		自然換気有効開口面積率 3.7%			
Q2 サービス性能					
1.1.1 広さ・収納性					
執務スペース		12.3㎡/人	病床	0㎡/床	シングル 0㎡ ツイン 0㎡
1.1.2 高度情報通信設備対応		コンセント容量 0.0 VA/㎡			
1.2.1 広さ感・景観		天井高 2.5 m			
1.2.2 リフレッシュスペース		リフレッシュスペース 0.5%		レストスペース 2.0%	
2.2.1 躯体材料の耐用年数		想定耐用年数 25 年			
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		想定必要間隔 20 年			
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		想定必要間隔 10、20 年			
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔		想定必要間隔 15 年			
3.1.1 階高のゆとり		階高 4.0m、3.7m			
3.1.2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率 13.8%			
3.2 荷重のゆとり		床荷重 4000 N/m2			
Q3 室外環境(敷地内)					
1 生物資源の保全と創出		外構緑化指数 25%		建物緑化指数 0%	
3.2 敷地内温熱環境の向上		空地率 20%		水平投影面積率 2% 地表面対策面積率 14% 舗装面積率 41%	
LR1 エネルギー					
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI/BPIin 0.73		断熱等性能等級 等級2 相当	
2 自然エネルギー利用		自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年㎡		採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0%	
				通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%	
3 設備システムの高効率化		BPI/BPIin 非住宅 0.94 住宅 -		太陽光 9.0kW 太陽熱等 0kW 蓄電池 0kW	
LR2 資源・マテリアル					
1.2.1 雨水利用システム導入の有無		雨水利用率 0.0%			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		特定調達品目 - エコマーク商品 磁器質床タイル 自治体指定の特定品目等 -			
2.5 持続可能な森林から産出された木材		使用比率 0.0%			
3.2.1 消火剤		オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)	
3.2.2 発泡剤(断熱材等)		オゾン層破壊係数(ODP) 0		地球温暖化係数(GWP) 0	
3.2.3 冷媒		オゾン層破壊係数(ODP) 0		地球温暖化係数(GWP) 1975	
LR3 敷地外環境					
2.2 温熱環境悪化の改善		見付面積比 41%		隣接間隔指標Rw 2.38	
		地表面対策面積率 18.0%		屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 0.0%	
		見付面積Sb 751㎡		卓越風向と直交する最大敷地幅Ws 94.34 m 基準高さHb 19.33 m	
		緑地 615㎡		水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 200㎡ 再帰性反射対策面 ㎡	